
付注

付注 目次

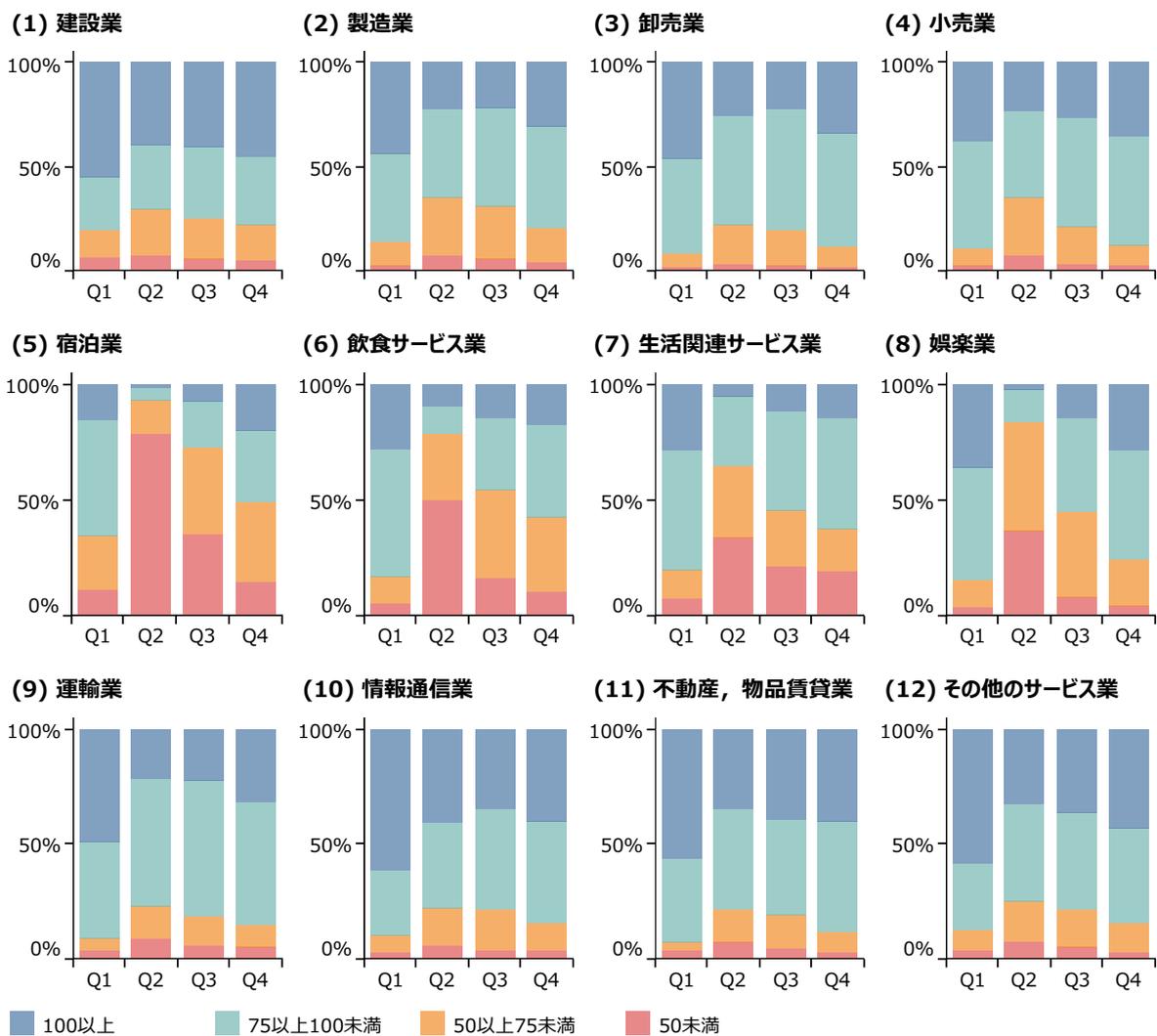
付注2-1-1 売上高回復企業に関する分析	Ⅲ-2
-----------------------------	-----

付注2-1-1 売上高回復企業に関する分析

第2部第1章では、限られたデータの中から感染症流行下で業績の回復を遂げている企業を抽出し、その特徴について分析している。ここでは、「売上高回復企業」の抽出方法について説明する。

はじめに、データ面の制約として、月次の利益水準を把握できている企業は限られることから、アンケート調査¹では四半期ごとの前年同期と比較した売上高の水準について確認している。各業種とも、4-6月期又は7-9月期にかけて売上高の水準が大きく減少した後、10-12月の見通しについてはある程度改善している傾向にある。

第2-1-28図 業種別に見た、2020年の売上高の推移（再掲）



資料：(株)東京商工リサーチ「中小企業の財務・経営及び事業承継に関するアンケート」

(注)1.2020年1-3月(Q1)、4-6月(Q2)、7-9月(Q3)、10-12月(Q4)の売上高について、

前年同期を「100%」とした場合の程度を聞いたもの。調査時点が11-12月時点のため、10-12月については見通しを聞いている。

2.縦軸は、全体に占める各売上高水準の企業の割合を示している。

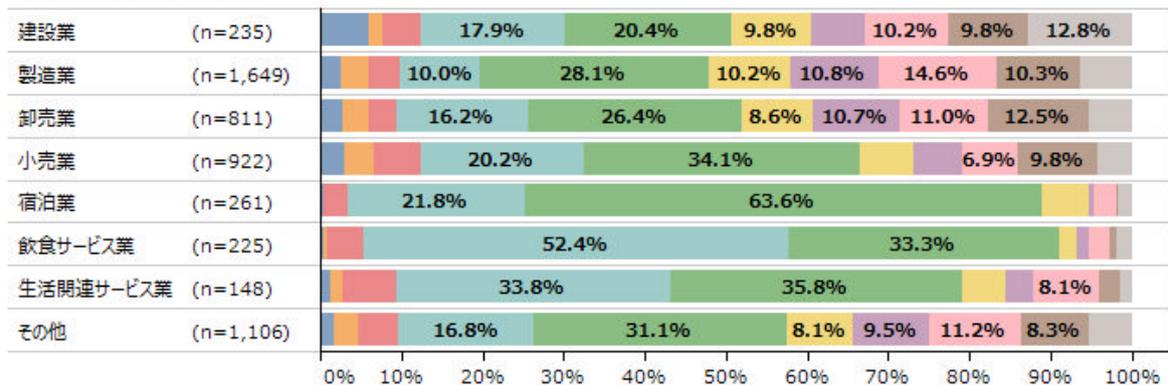
3.回答数(n)は以下のとおり。建設業：n=269、製造業：n=1,742、卸売業：n=305、小売業：n=285、宿泊業：n=268、飲食サービス業：n=240、生活関連サービス業：n=157、娯楽業：n=138、運輸業：n=285、情報通信業：n=305、不動産、物品賃貸業：n=189、その他のサービス業：n=302。

1 (株)東京商工リサーチが実施した「財務・経営及び事業承継に関するアンケート」。詳細は第2部第1章参照。

これを踏まえて、まず「回復」を見ていくに当たり、感染症流行下で売上高の減少を経験した企業として、「2020年1～10月のうち、前年同月比の売上高が最も減少した月が4月から9月のいずれかの月である企業」を抽出。さらに、売上高が最も減少した月の前年同月比売上高の水準によって、5つの階層に類型した（付図1）。

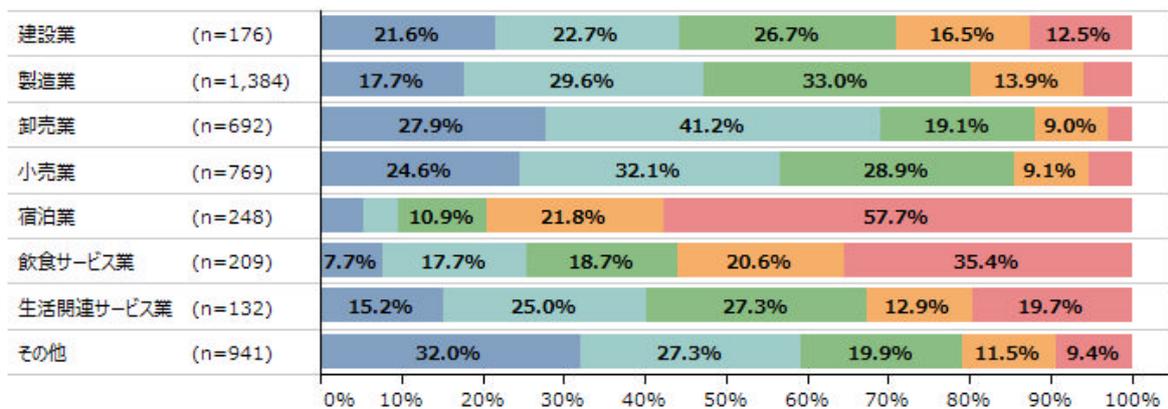
付図1 最も売上高が減少した月の売上高水準

最も売上高が減少した月



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月

該当月の売上高水準

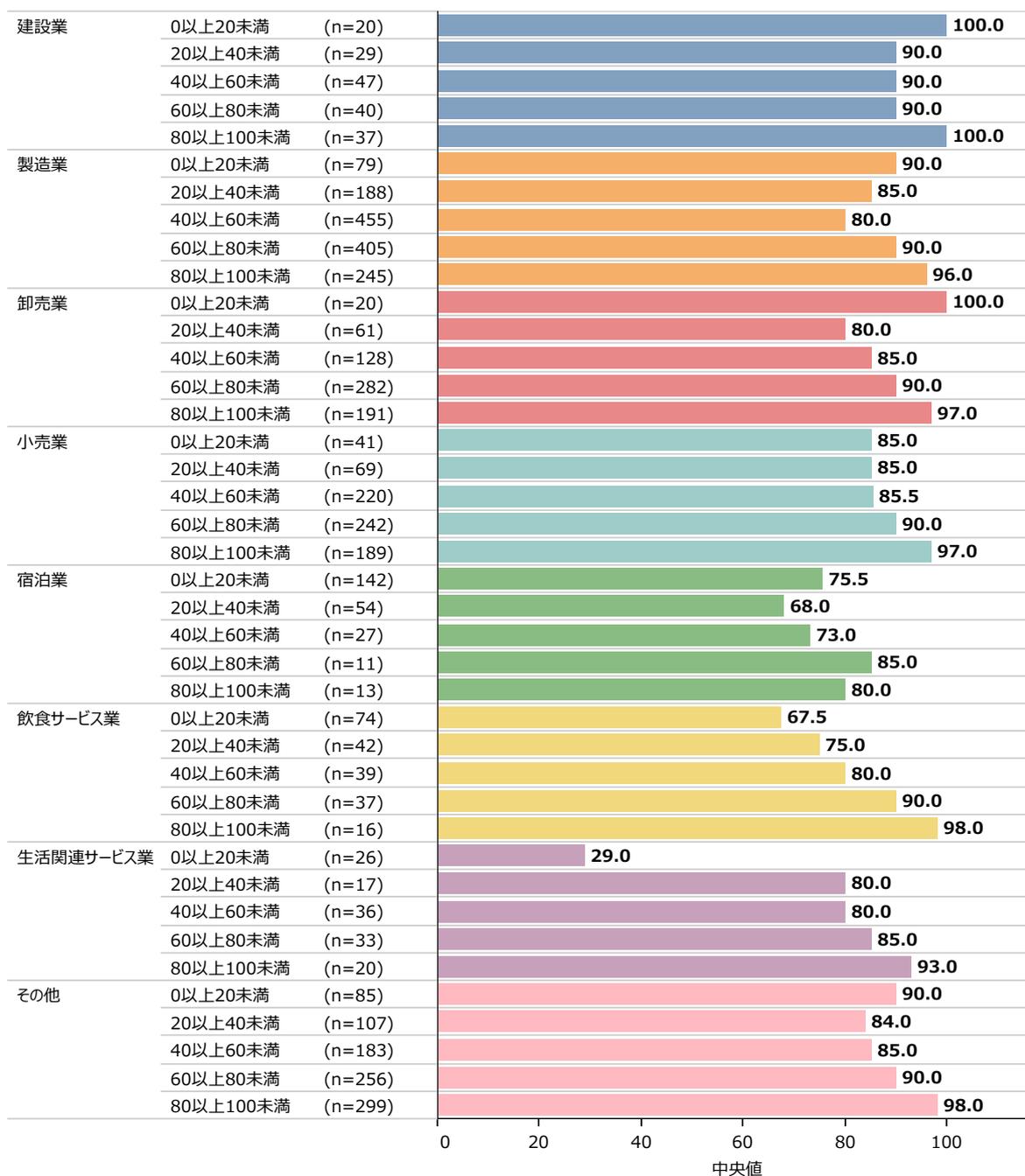


80以上100未満 60以上80未満 40以上60未満 20以上40未満 0以上20未満

資料：(株)東京商工リサーチ「中小企業の財務・経営及び事業承継に関するアンケート」

この階層ごとに、2020年10-12月の前年同期比売上高の中央値を見たものが付図2である。これを見ると、大きな売上高の減少を経験した企業の方が、売上高が回復していない傾向にある一方、最低売上高の水準と10-12月の売上高の水準の差を見ると、大きな売上高の減少を経験した企業の方が、差が大きくなっている。

付図2 10-12月の売上高水準（最低売上高の水準別）



資料：(株)東京商工リサーチ「中小企業の財務・経営及び事業承継に関するアンケート」
(注)1.2020年に最も売上高(前年比)が落ち込んだ月が4月～9月だった企業について集計。
2.縦軸は最も売上高が落ち込んだ月の前年同期比売上高(%)を示している。
3.横軸は2020年10-12月の前年同期比売上高(%)の中央値を示している。

最低売上高の水準と10-12月の売上高の水準の差をもって回復幅を測ると、大きな売上げの減少を経験した企業の方が、回復幅が大きい傾向にある。そこで、最低売上高の水準によるバイアスを排除するために、各階層ごとに2020年10-12月の売上高水準が中央値を上回る企業を「売上高回復企業」、中央値の企業及び中央値を下回る企業を「その他」とした（付図3）。

付図3 売上高回復企業（整理）

● 感染症拡大後（4～9月）に売上高が最も落ち込んだ企業について集計。

売上高(前年同期を「100」とした場合)	3月以前	4月/5月/6月/7月 /8月/9月	10-12月
100以上			
80以上100未満			
60以上80未満			
40以上60未満			
20以上40未満			
0以上20未満			